

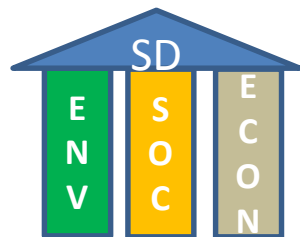
持続可能な開発目標(SDGs)

—その策定背景と日本への期待—

東京大学大学院教育学研究科

准教授 北村 友人

「持続可能な開発目標」で目指す「持続可能性」とは？



人間活動が地球の
行末を決める時代

人類世 Anthropocene

人類世における「持続
可能な開発」の再定義

将来の世代の
欲求を満たしつ
つ、現在の世代
の欲求も満足さ
せるような開発



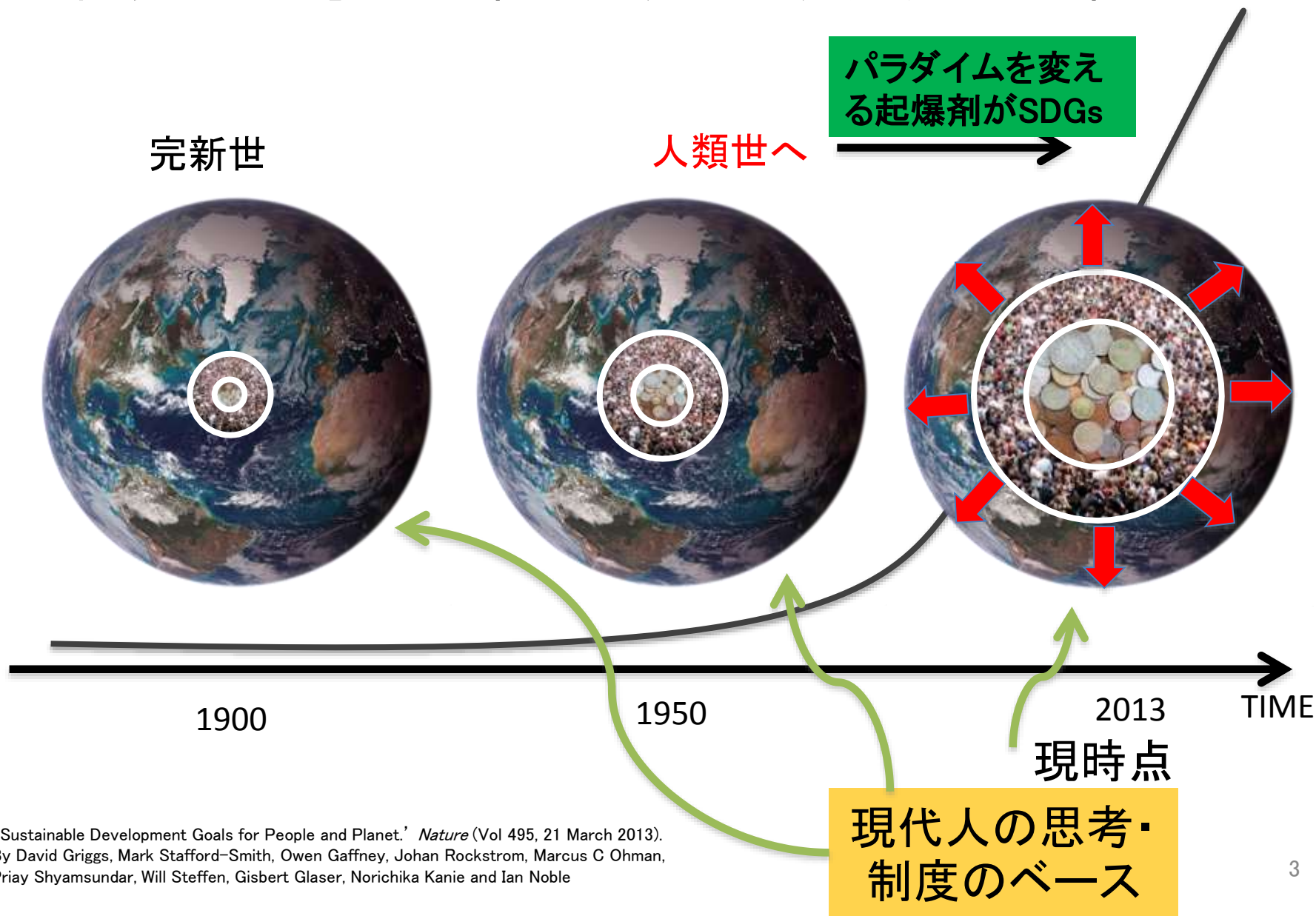
Development that meets
the needs of the present
while safeguarding Earth's
life-support system, on
which the welfare of
current and future
generations depends

現在及び将来の世代の人
類の繁栄が依存している
地球の生命維持システム
を保護しつつ、現在の世
代の欲求を満足させるよ
うな開発



開発と環境の課題解決への2つの悪影響

「開発」の環境変化への悪影響 (i.e. 工業化による温暖化、森林伐採への悪影響)
環境変化の「開発」への悪影響 (i.e. 温暖化による食物生産への悪影響)



‘Sustainable Development Goals for People and Planet.’ *Nature* (Vol 495, 21 March 2013).
By David Griggs, Mark Stafford-Smith, Owen Gaffney, Johan Rockstrom, Marcus C Ohman,
Priya Shyamsundar, Will Steffen, Gisbert Glaser, Norichika Kanie and Ian Noble

ミレニアム開発目標(MDGs)と 持続可能な開発目標(SDGs)

人間の成長に関する領域
(教育分野)

人間の生存に関する領域
(保健・健康・衛生に関する
分野)

持続可能な社会
(sustainable society)
の実現

社会の成長に関する領域
(経済開発分野)

社会の存続に関する領域
(環境・資源に関する諸分野)

Sustainable Development Goals

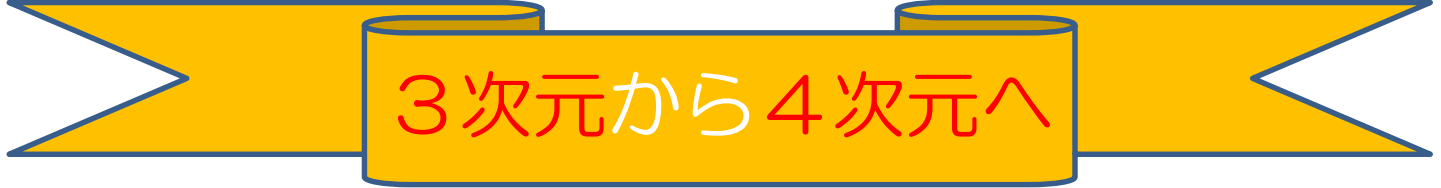


持続可能な開発目標(SDGs)とは？

MDGs=現代世界の開発の課題を緩和するため(貧困)

SDGs=MDGs+時間

MDGsの課題緩和をしながら
将来にわたって緩和する／悪化させない
ための目標

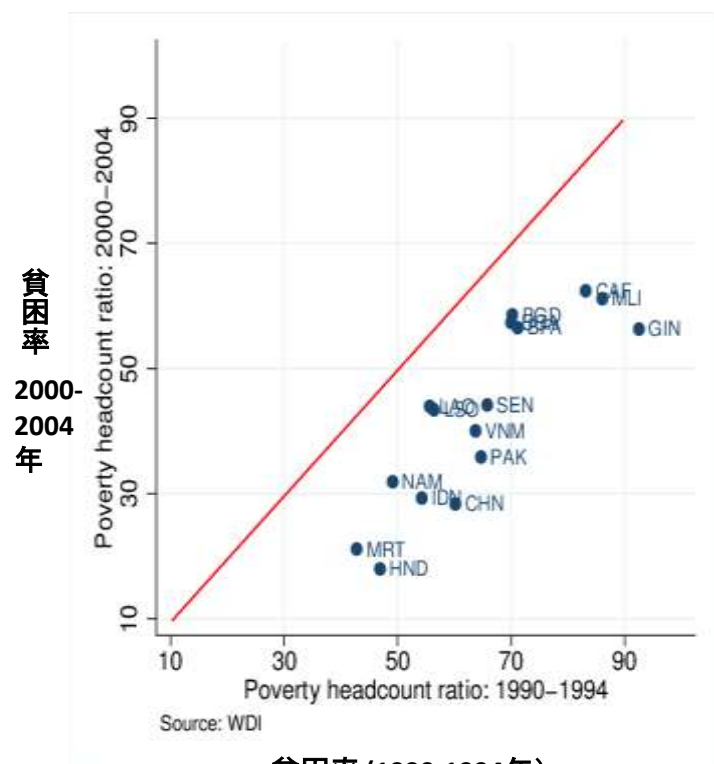


3次元から4次元へ

持続可能な経済開発

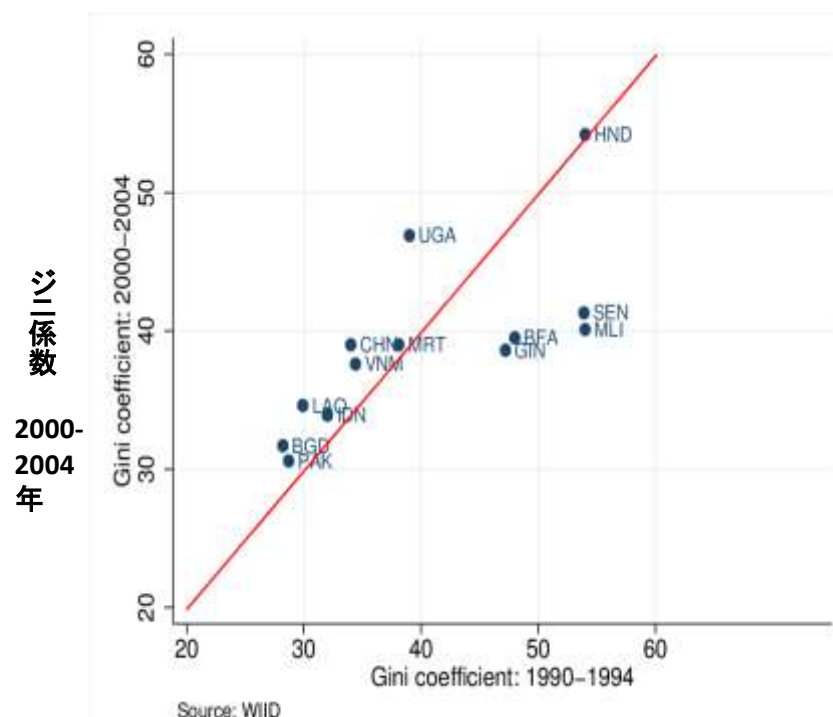
「貧困削減から格差是正へ」

貧困率



貧困率 (1990-1994年)

ジニ係数



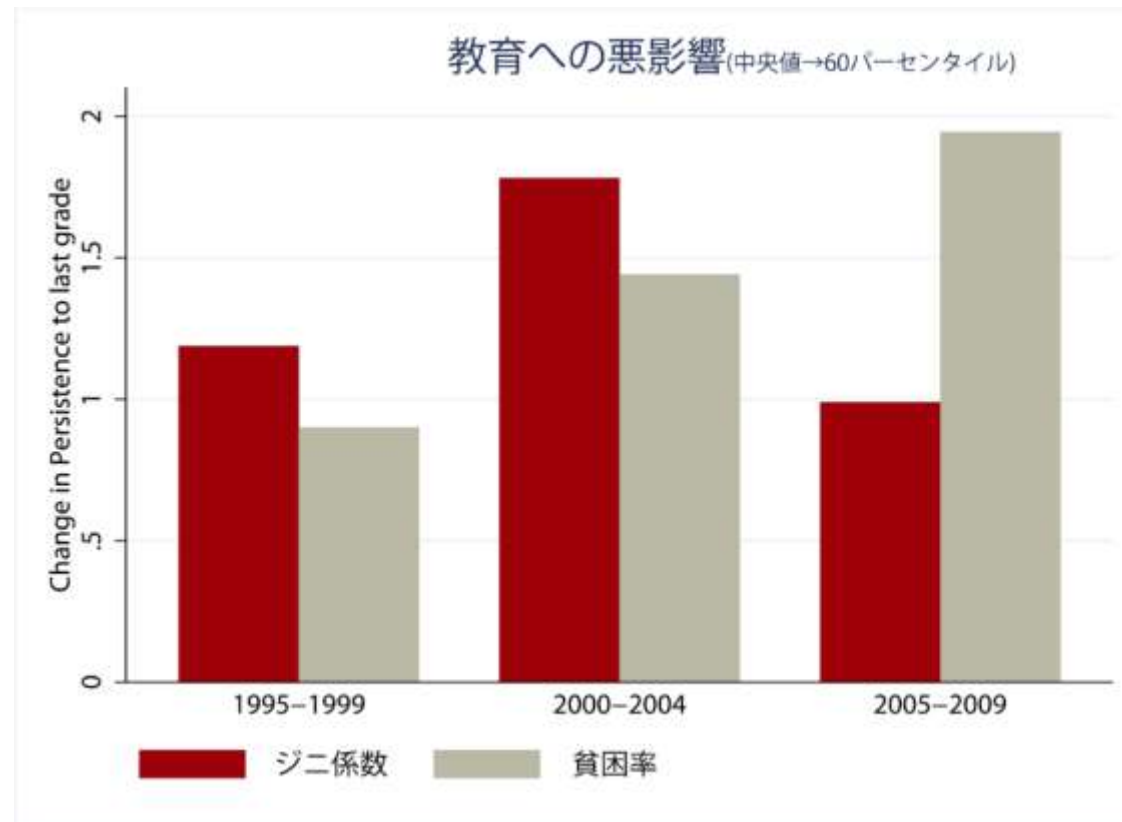
ジニ係数 (1990-1994年)

⇒ 大幅な貧困削減の一方、格差は改善していない

不平等と教育・保健の相関関係への着目

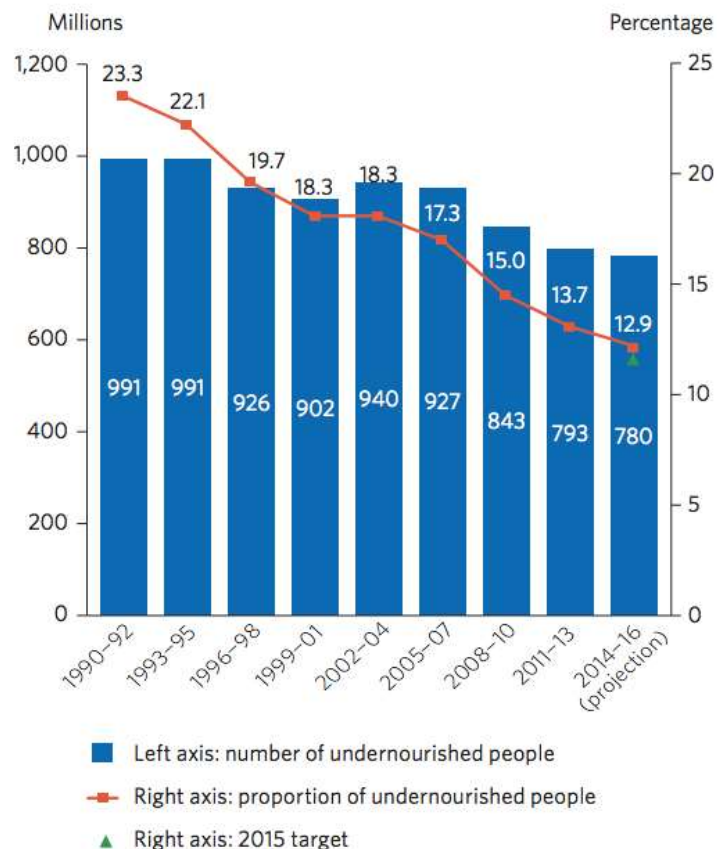
貧困率及びジニ係数が教育に与える影響

- 不平等の指標である「ジニ係数」の影響を推定したところ、以下の教育・保健に関連する指標に影響することが判明
 - 「最終学年まで到達する生徒数」(MDG 2)
 - 「脆弱な雇用」(MDG 1)
 - 「10代の出産」(MDG 5)
- 不平等の影響は貧困率の効果をコントロール後も無視できない大きさ

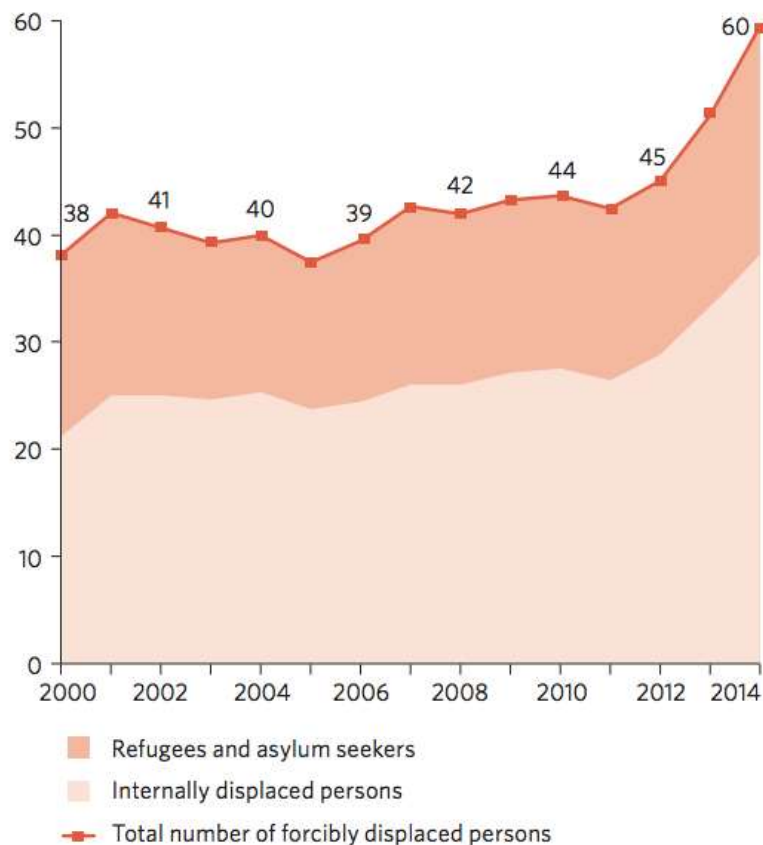


栄養状態および紛争などによる居住地喪失・亡命者

Number and proportion of undernourished people in the developing regions, from 1990–1992 to 2014–2016



Number of forcibly displaced persons, 2000–2014 (millions)



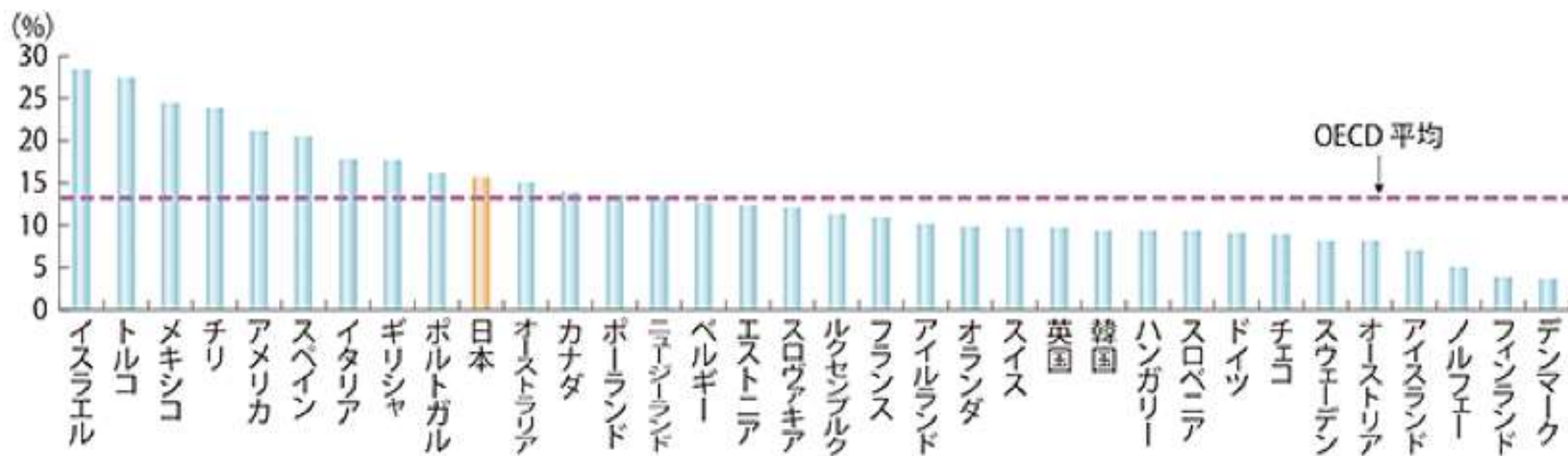
(出典: UN MDGs report 2015,

[http://www.un.org/millenniumgoals/2015_MDG_Report/pdf/MDG%202015%20rev%20\(July%201\).pdf](http://www.un.org/millenniumgoals/2015_MDG_Report/pdf/MDG%202015%20rev%20(July%201).pdf))

相対的貧困率の国際比較

第1-3-39図 相対的貧困率の国際比較（2010年）

(1) 子どもの貧困率



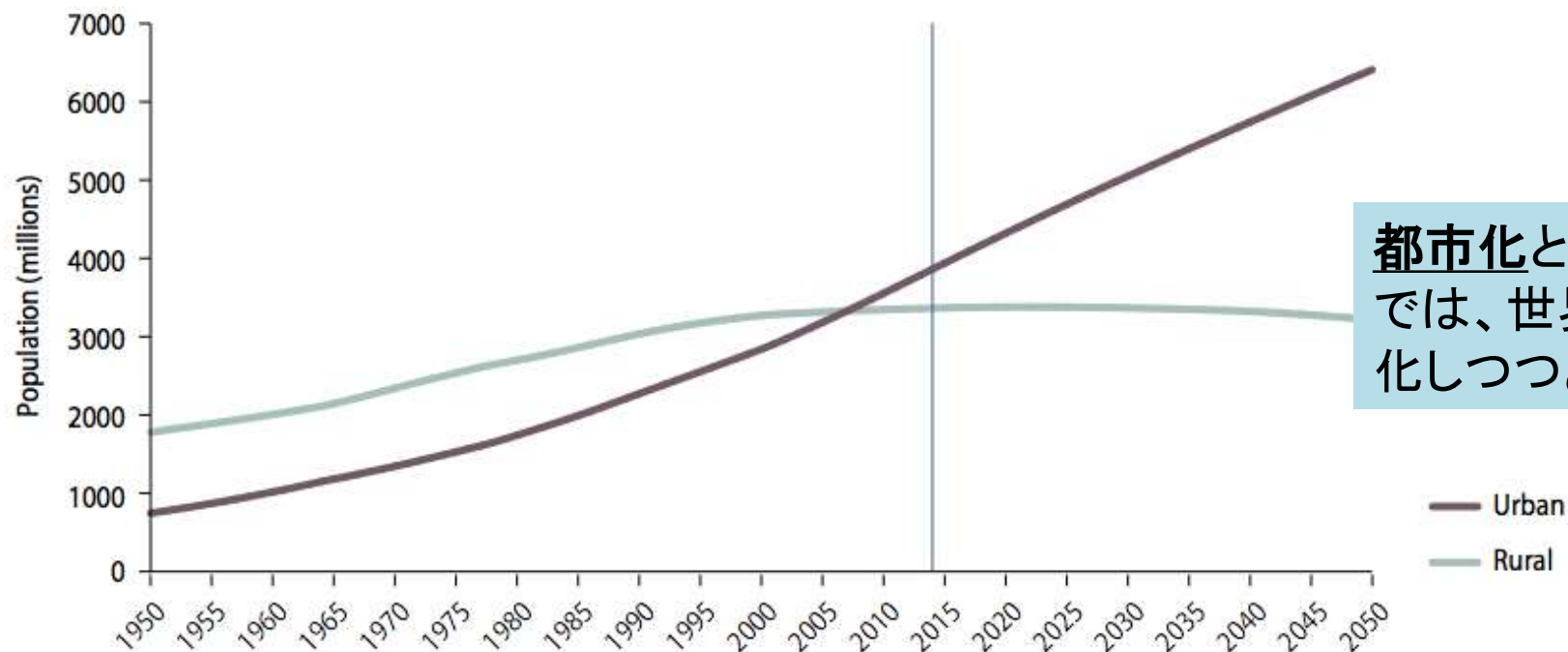
(出典: 内閣府HP、http://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h26honpen/b1_03_03.html)

世界的に人類文明の都市化が進行中(グローバル・マクロ的視点)

Figure 2.

Urban and rural population of the world, 1950–2050

A majority of the world's population lives in urban areas



都市化という意味では、世界は均質化しつつある

2014年: 全世界人口の54%が都市に居住

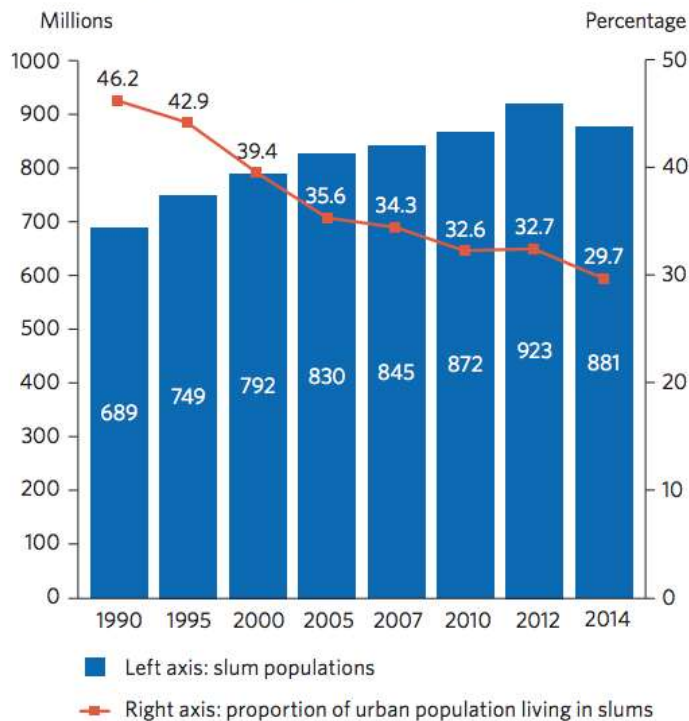
1950年: 30%

2050年: 66%が都市に居住すると推定

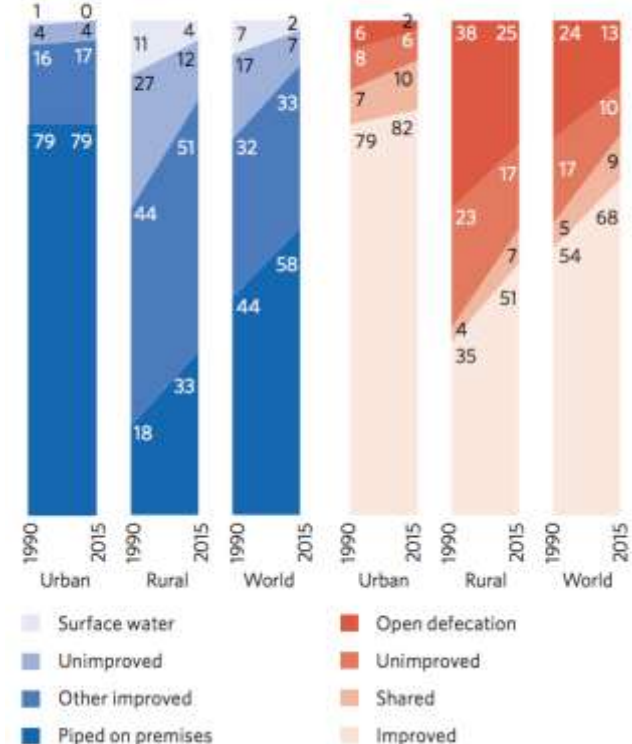
(出典: UN <http://esa.un.org/unpd/wup/Highlights/WUP2014-Highlights.pdf>)

都市におけるスラムの問題

Urban population living in slums (millions)
and proportion of urban population living in slums
(percentage), developing regions, 1990–2014



Proportion of population using improved and unimproved drinking water sources and sanitation facilities, urban, rural and world, 1990 and 2015 projection (percentage)



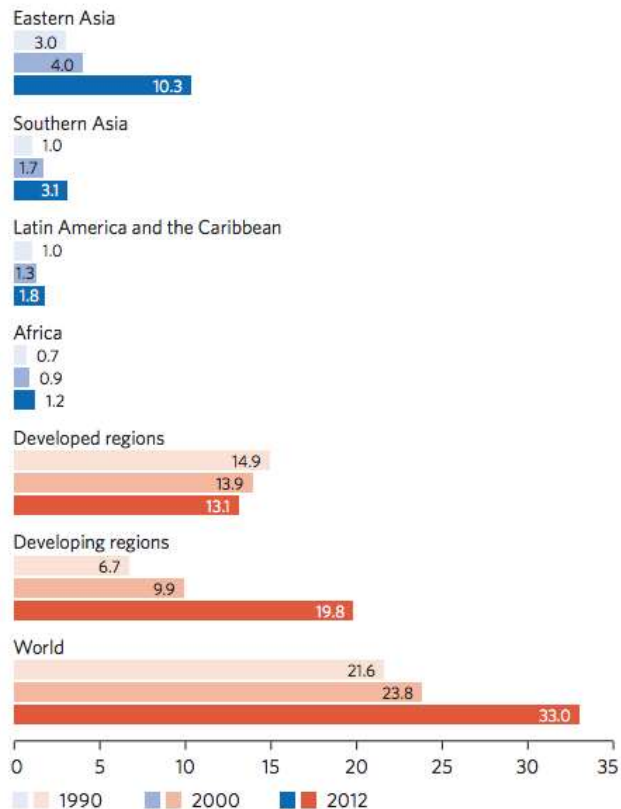
8億8千万人ほどの人が都市のスラムに住んでいる。

(出典: UN MDGs report 2015,

[http://www.un.org/millenniumgoals/2015_MDG_Report/pdf/MDG%202015%20rev%20\(July%201\).pdf](http://www.un.org/millenniumgoals/2015_MDG_Report/pdf/MDG%202015%20rev%20(July%201).pdf))

温室効果ガス(二酸化炭素)排出量

Emissions of carbon dioxide, 1990, 2000 and 2012*
(billions of metric tons)



* Data for 2012 are preliminary estimates and the breakdown for some MDG regions is not available. Therefore, the regional estimates do not add up to the total.

- アジアで増加
- 途上国全体で急増
- 世界的に増加

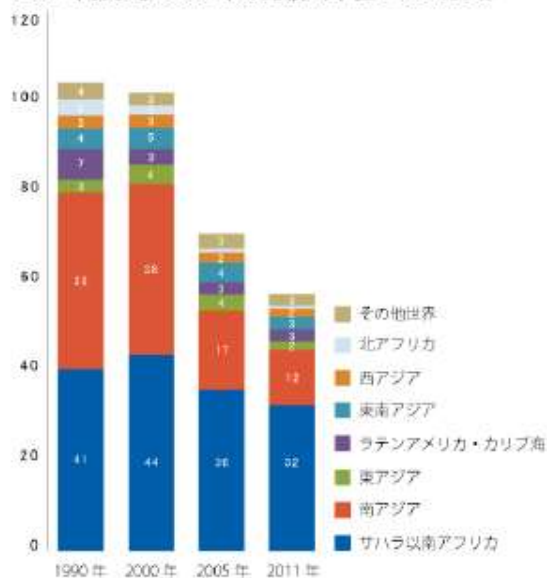
(出典: UN MDGs report 2015,

[http://www.un.org/millenniumgoals/2015_MDG_Report/pdf/MDG%202015%20rev%20\(July%201\).pdf](http://www.un.org/millenniumgoals/2015_MDG_Report/pdf/MDG%202015%20rev%20(July%201).pdf))

教育関連MDGsの進捗状況と課題

(1) アクセスは一定の進捗

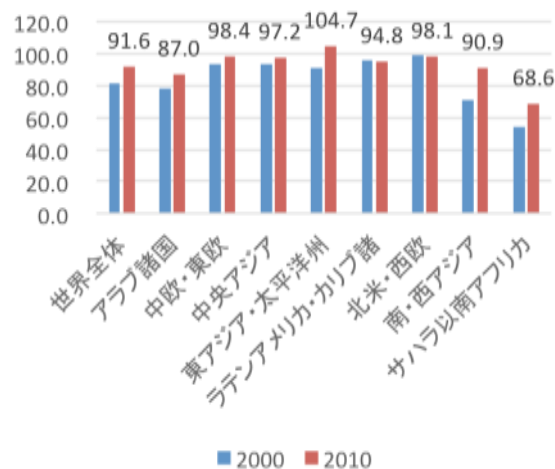
初等教育就学年齢の非就学児童数、1990年、2000年、2005年および2011年の比較（単位：100万人）



不就学児童数は2011年時点で5,700万人。（2000年時点の1億200万人から約半減）

(2) 教育の質に依然課題

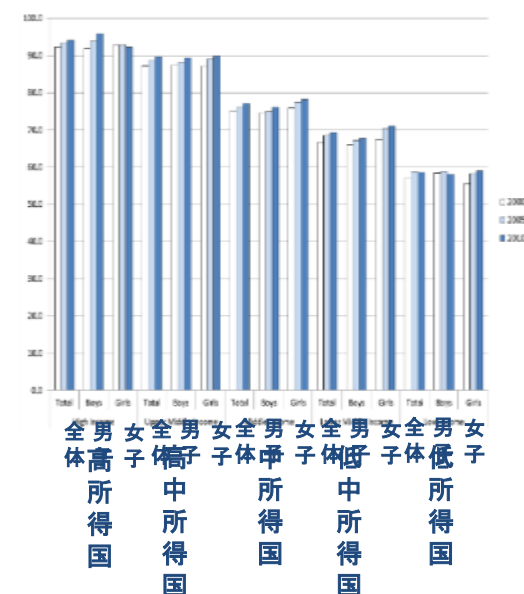
初等教育における最終学年粗進級率の推移（2000年、2010年）



最終学年粗進級率は東アジア太平洋州、南西アジア等で改善したが、サハラ以南アフリカでは3分の1の児童が小学校最終学年到達前に中退。

(3) 教育の格差にも課題

男女別・国の所得レベル別の初等教育最終学年到達率（2000年、2005年、2010年）



初等教育最終学年到達率は国の所得水準が低い程低く、低所得国においては2010年時点でも6割程度にとどまっている。

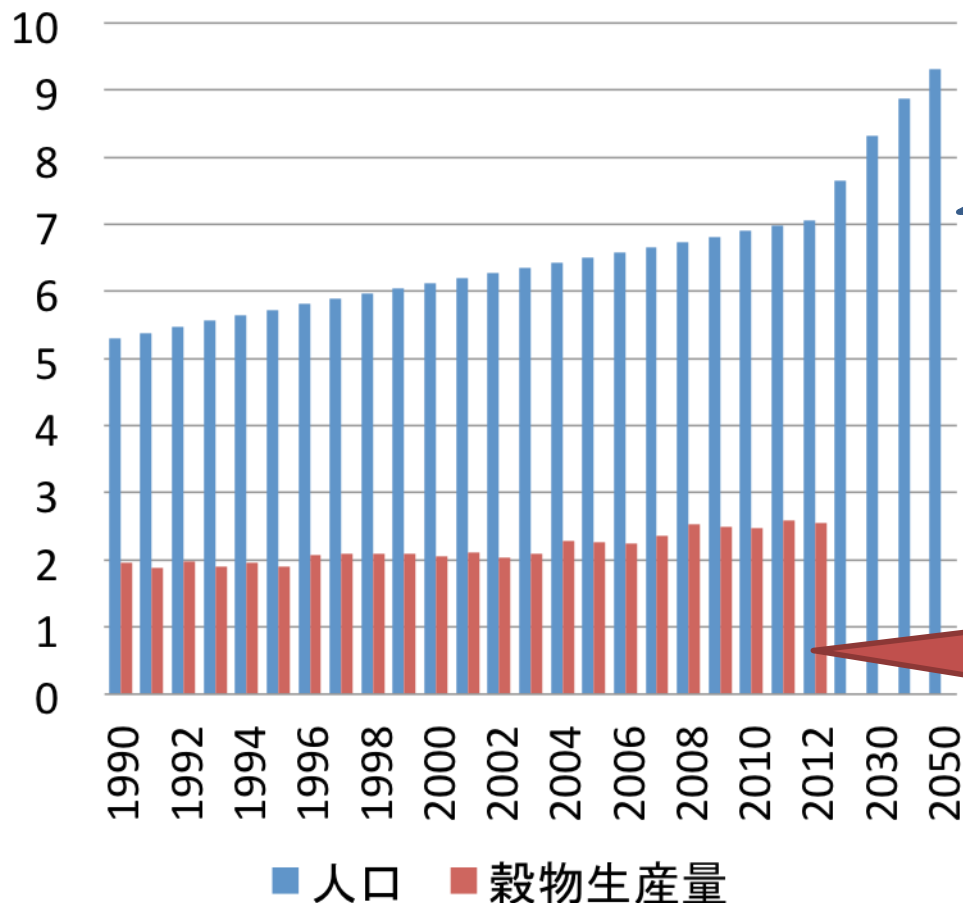
飢餓問題

- 途上国の栄養不足人口の割合は、1990-92年の24%から2011-13年には14%に減少したが、1億6200万人の子どもが今も慢性的な栄養不足に苦しんでいる



世界の人口増加と穀物生産量(トン)

(単位: 十億)



人口は1990年の約50億人から約70億人に急激に増加。2050年には、90億人に達する見込み。

穀物生産量は1990年の約20億トンから25億トンへと緩やかに増加。

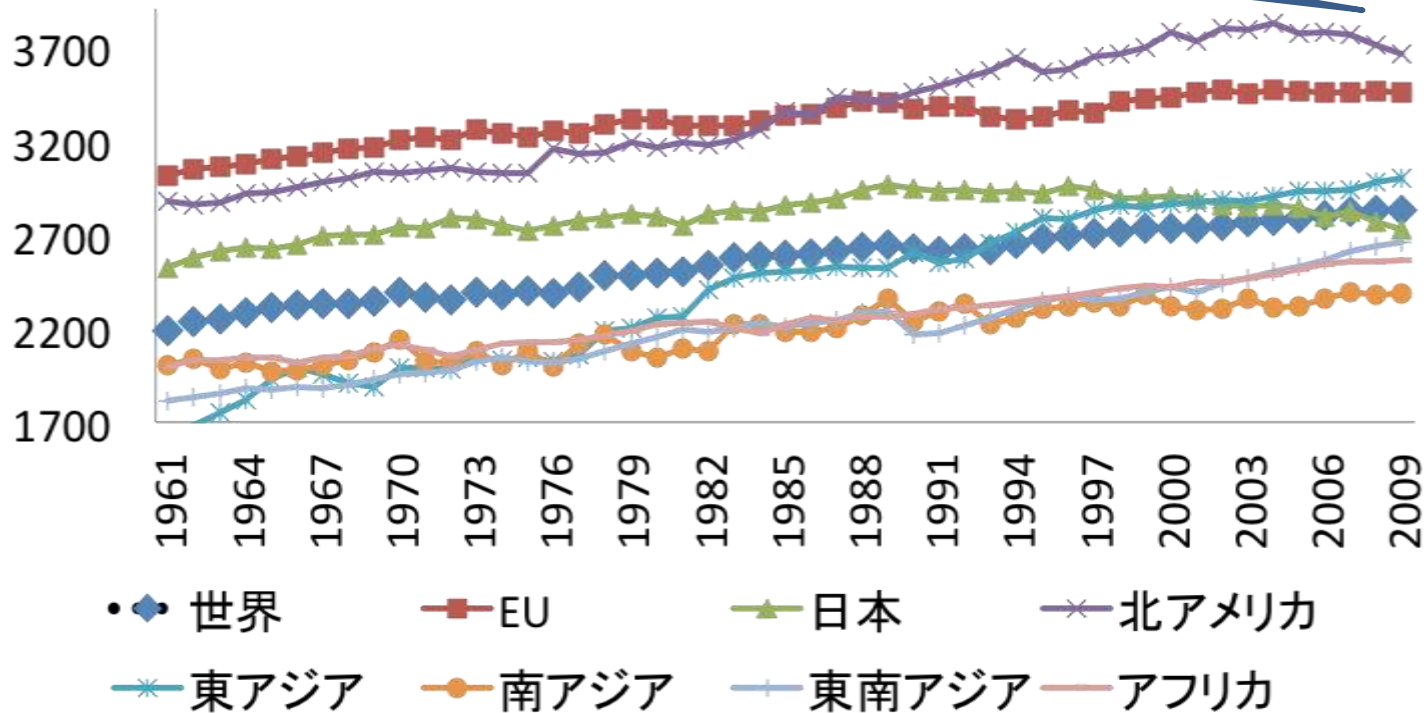
Source: FAOSTAT

カロリー供給：国際比較

(kcal/capita/day)

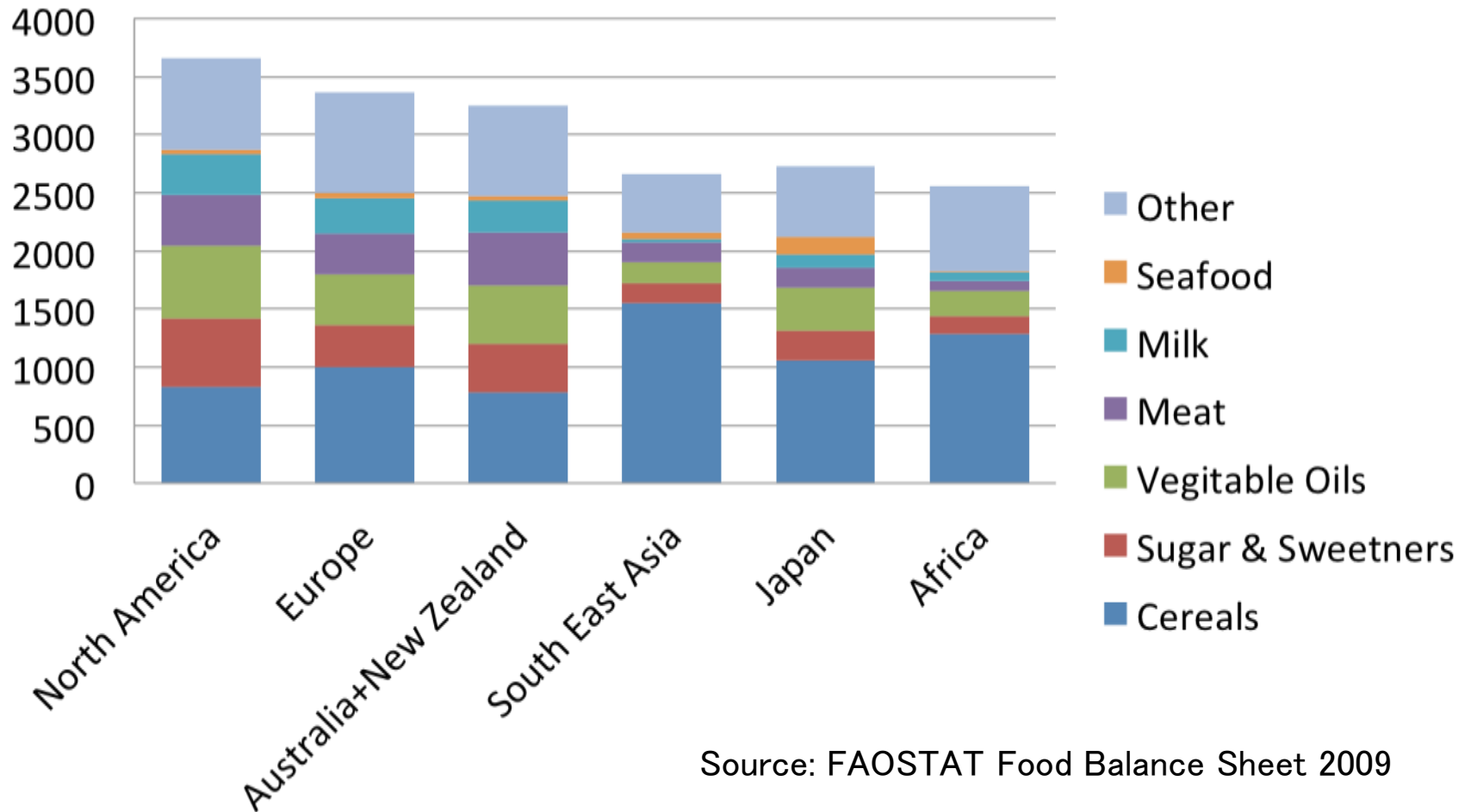
北米・西ヨーロッパは
3500kcalを超える

2009年度の世界平均は
約2800kcal



カロリー消費：国際比較

(単位: kcal/capita/day)



Source: FAOSTAT Food Balance Sheet 2009

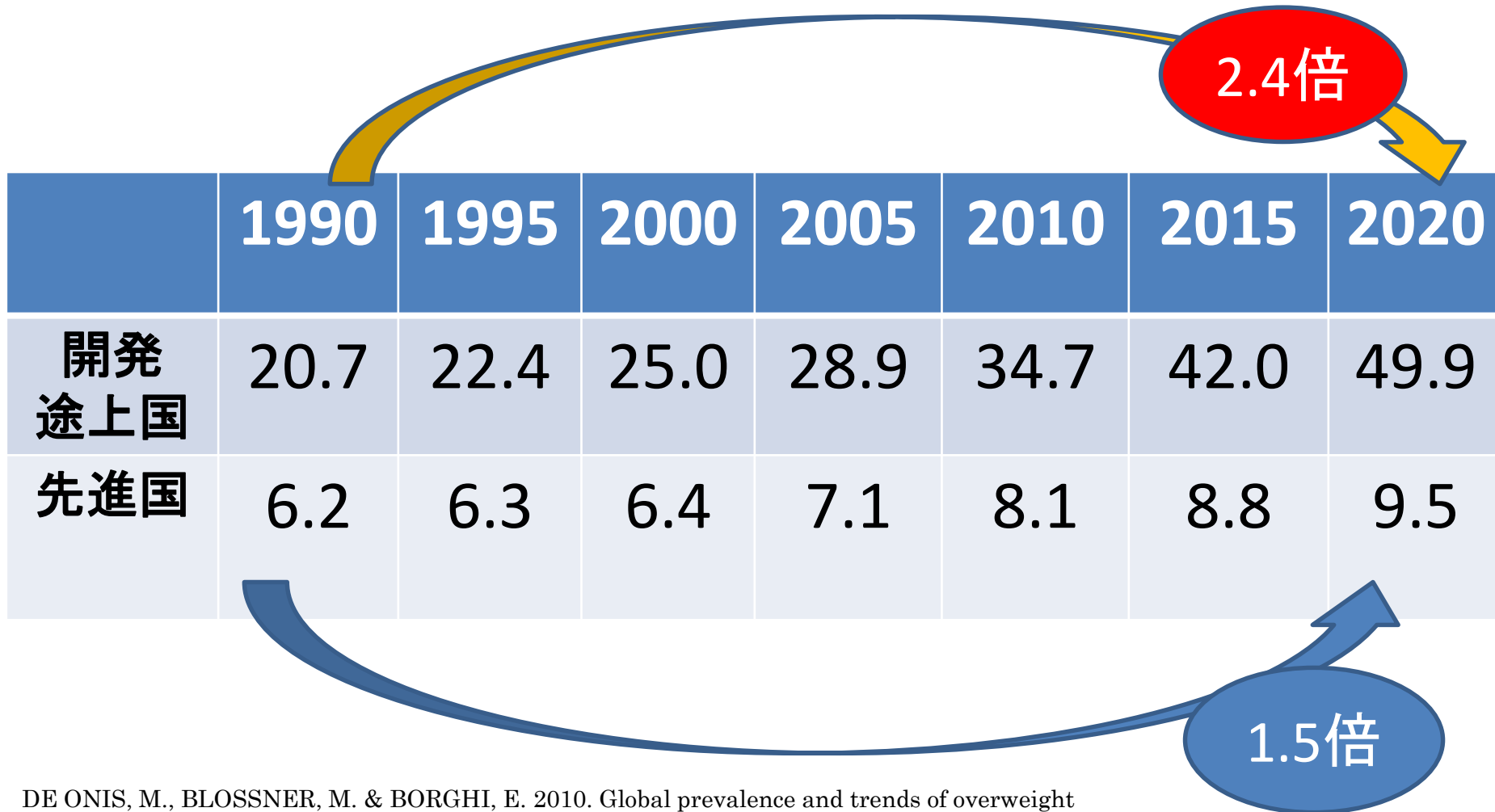
肥満問題

1980年以降、肥満人口は急激に増加している。現在、世界で5人に1人は、過剰体重(=BMI>25)と言われている。

肥満の流行拡大の様相は、エイズが世界的流行になった、そのスピードを上回る。

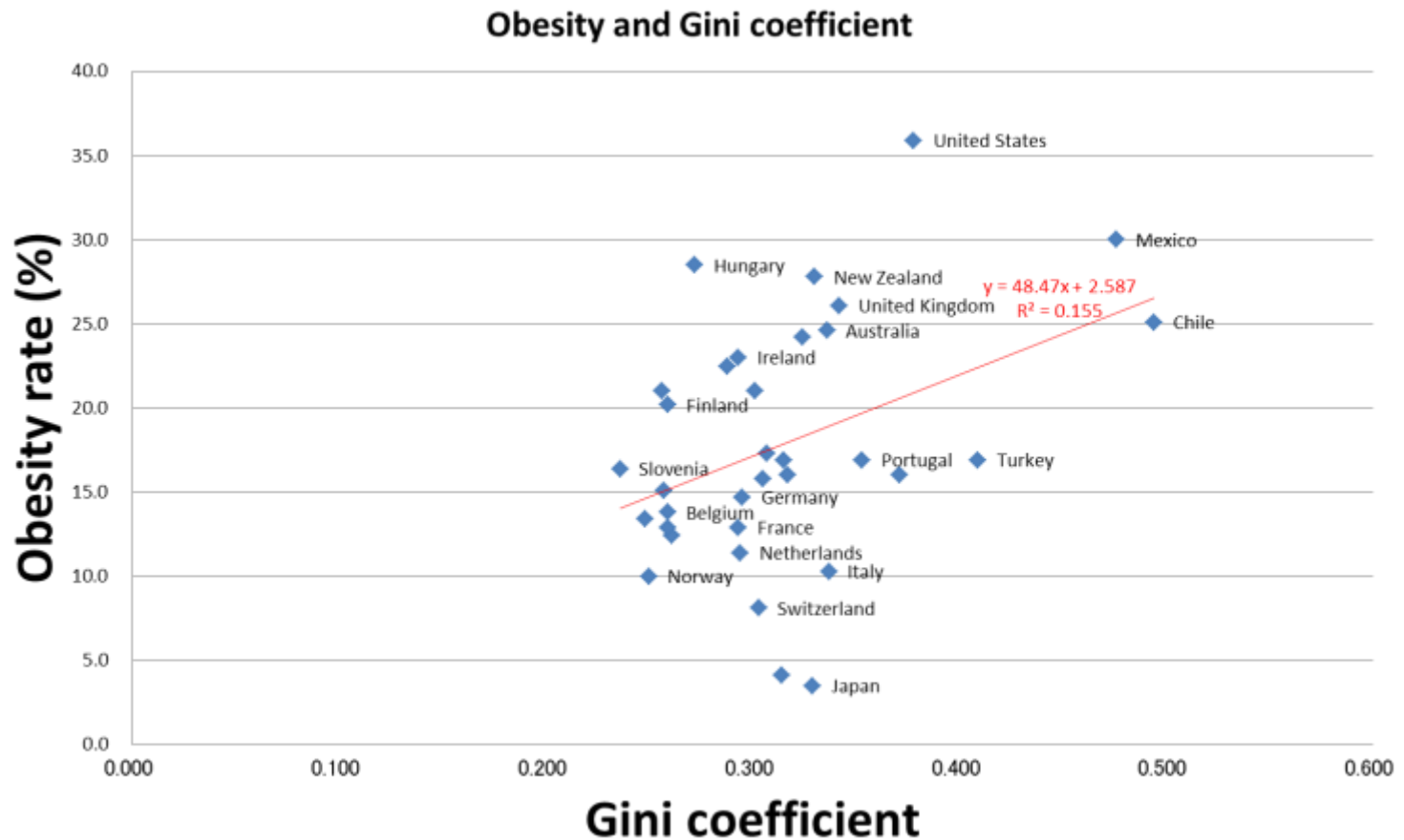


0～5歳児の肥満人口の推移(単位:100万人)



DE ONIS, M., BLOSSNER, M. & BORGHI, E. 2010. Global prevalence and trends of overweight and obesity among preschool children. *Am J Clin Nutr*, 92, 1257-64.

肥満と収入格差



人口問題

二つの側面がある

“人口爆発”
開発途上国

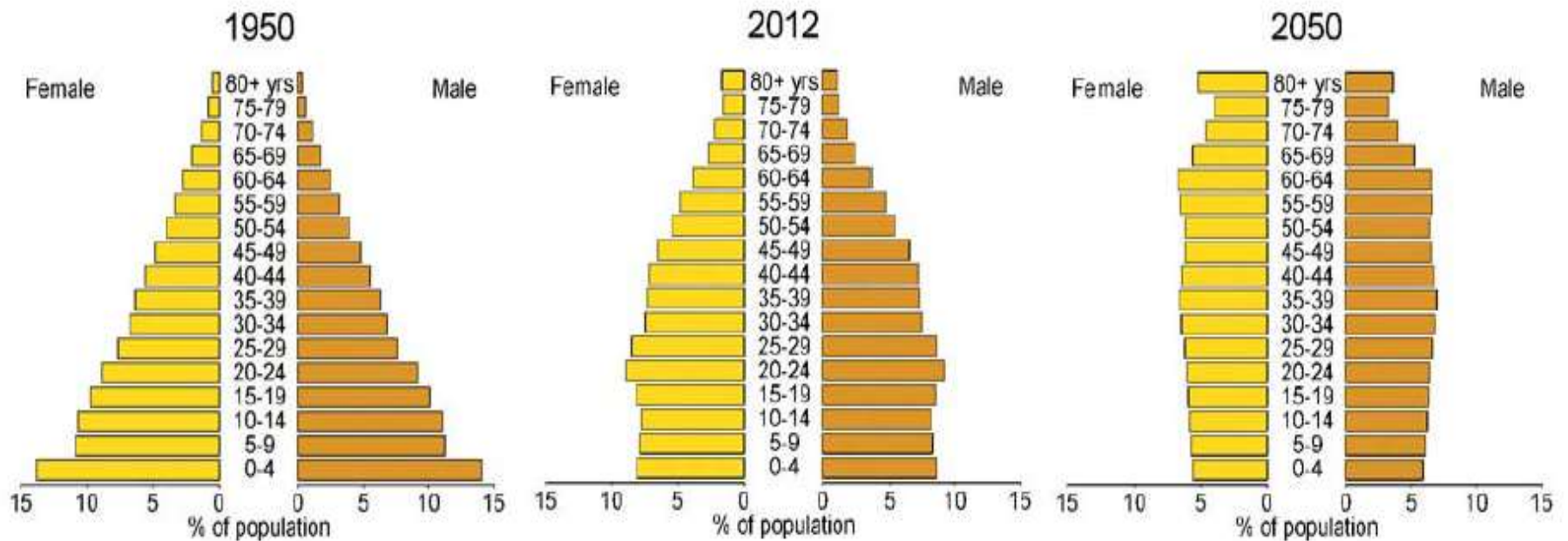
使用可能な資源の総量が大きな課題か

資源の配分の問題か

“高齢化社会＋低出生率”
先進国

人口ピラミッドの変化

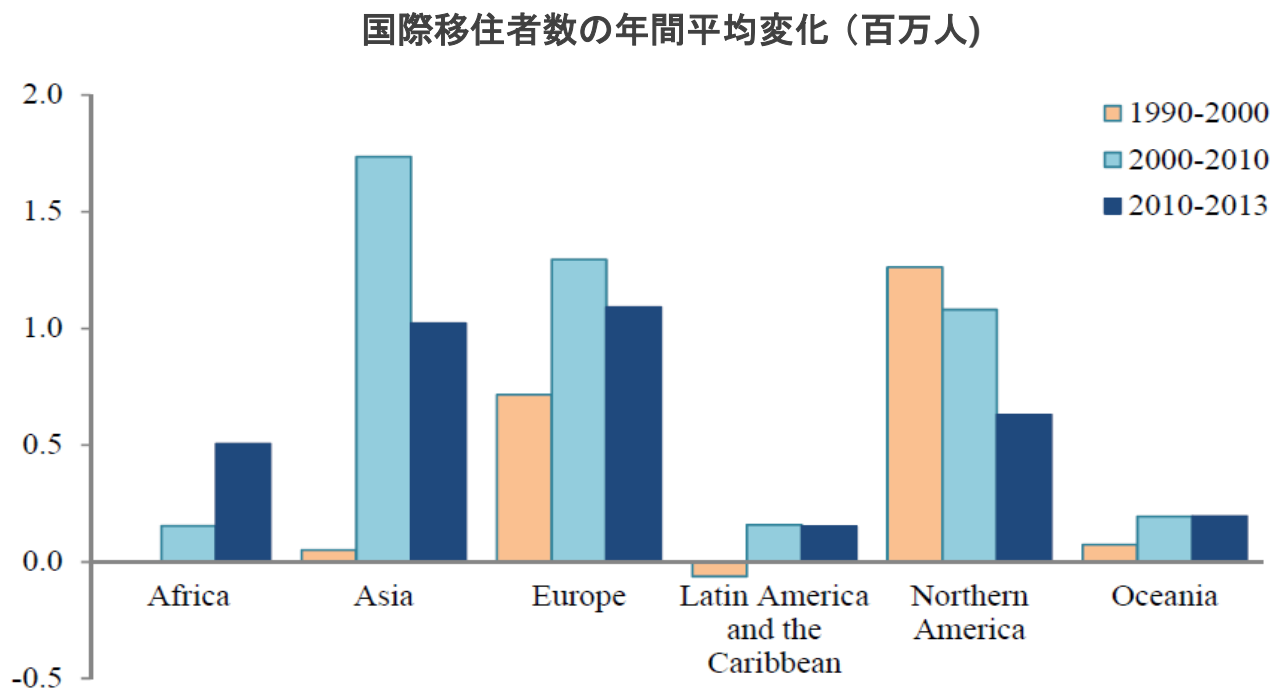
アジア太平洋地域の高齢化



Source : UNESCAP (2013), Statistical Yearbook for Asia and the Pacific 2013.

<Presented by Dr. Gwan-Jo Kim, Director of UNESCO Bangkok at the University of Tokyo on December 10, 2015>

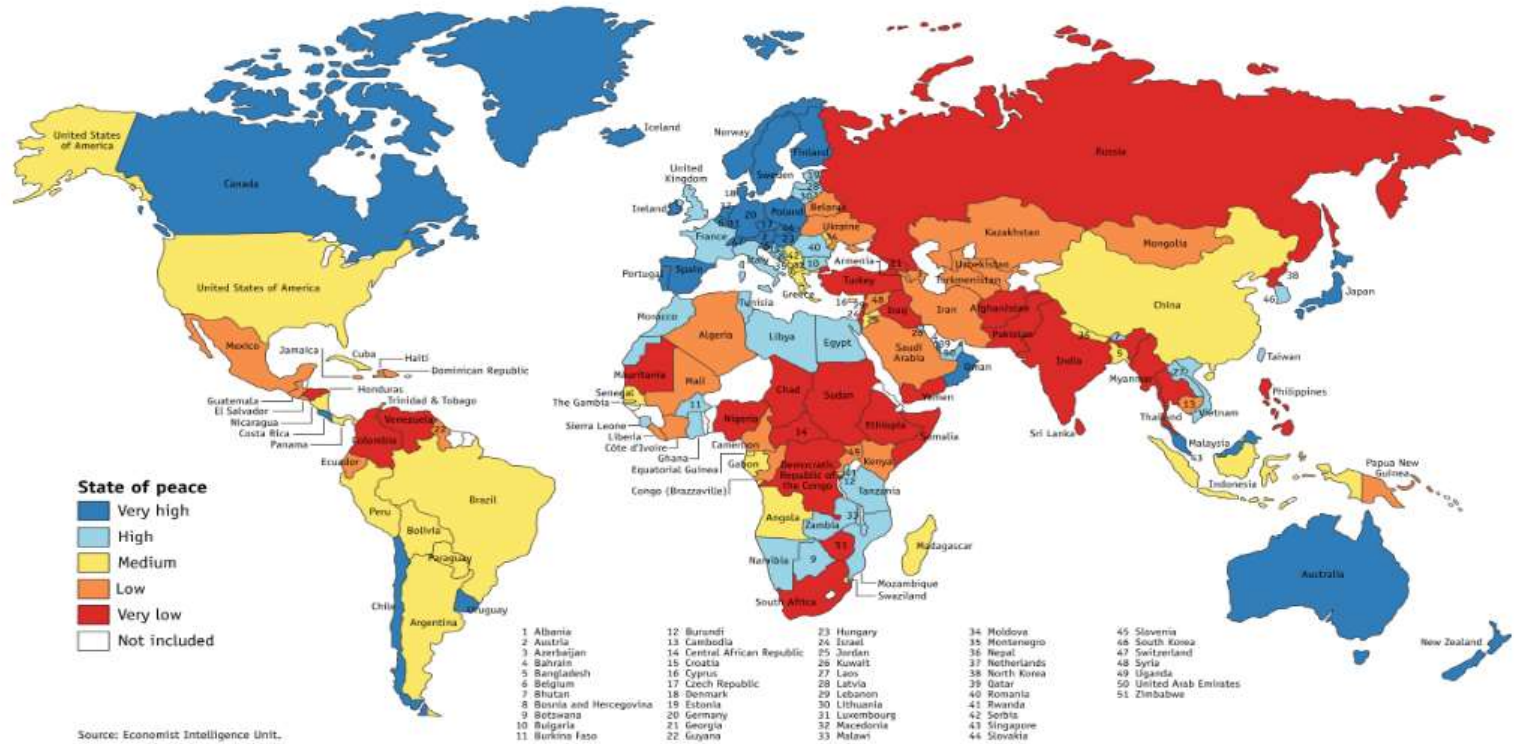
国境を超えた人々の移動性



Source : UN Population (2013), International Migration Reports.

<Presented by Dr. Gwan-Jo Kim, Director of UNESCO Bangkok at the University of Tokyo on December 10, 2015>

世界の紛争状況

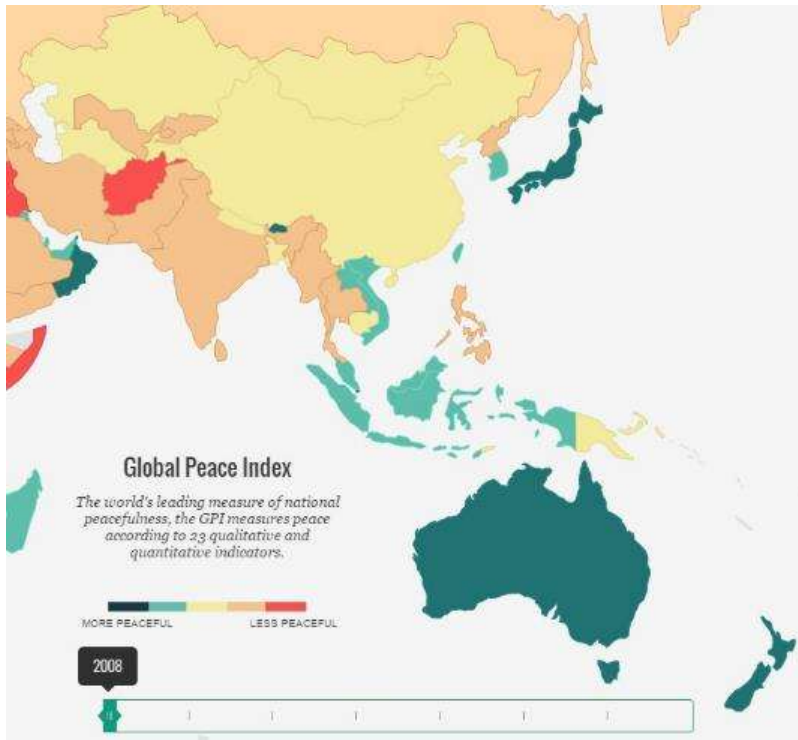


Source: Results of the Global Peace Index (2010)

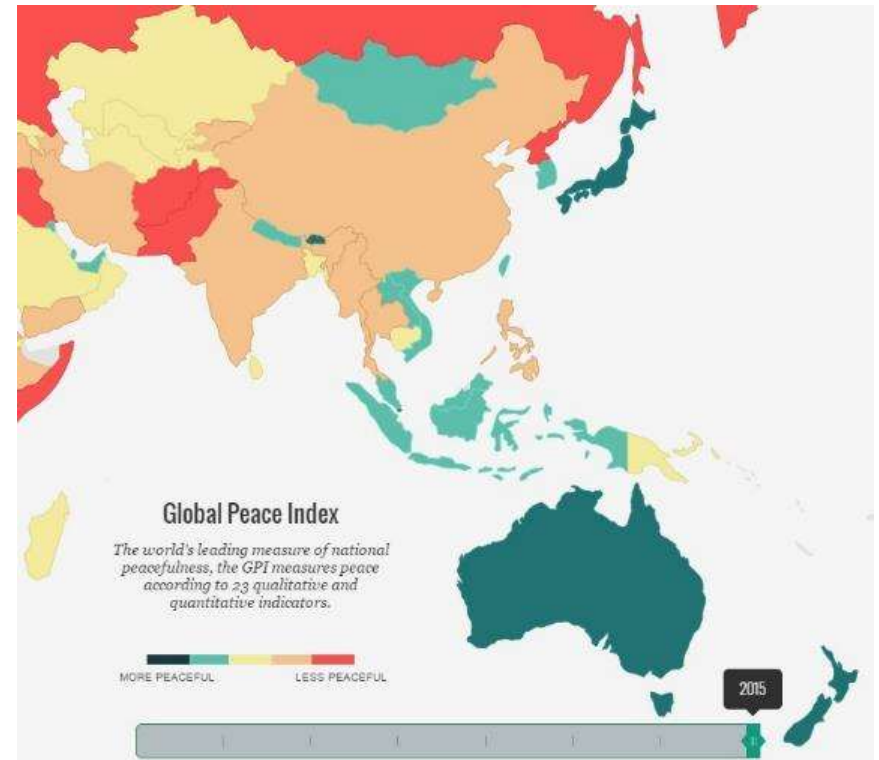
<Presented by Dr. Gwan-Jo Kim
Director of UNESCO Bangkok at the University of Tokyo on December 10, 2015>

平和から遠ざかる？

GPI 2008



GPI 2015

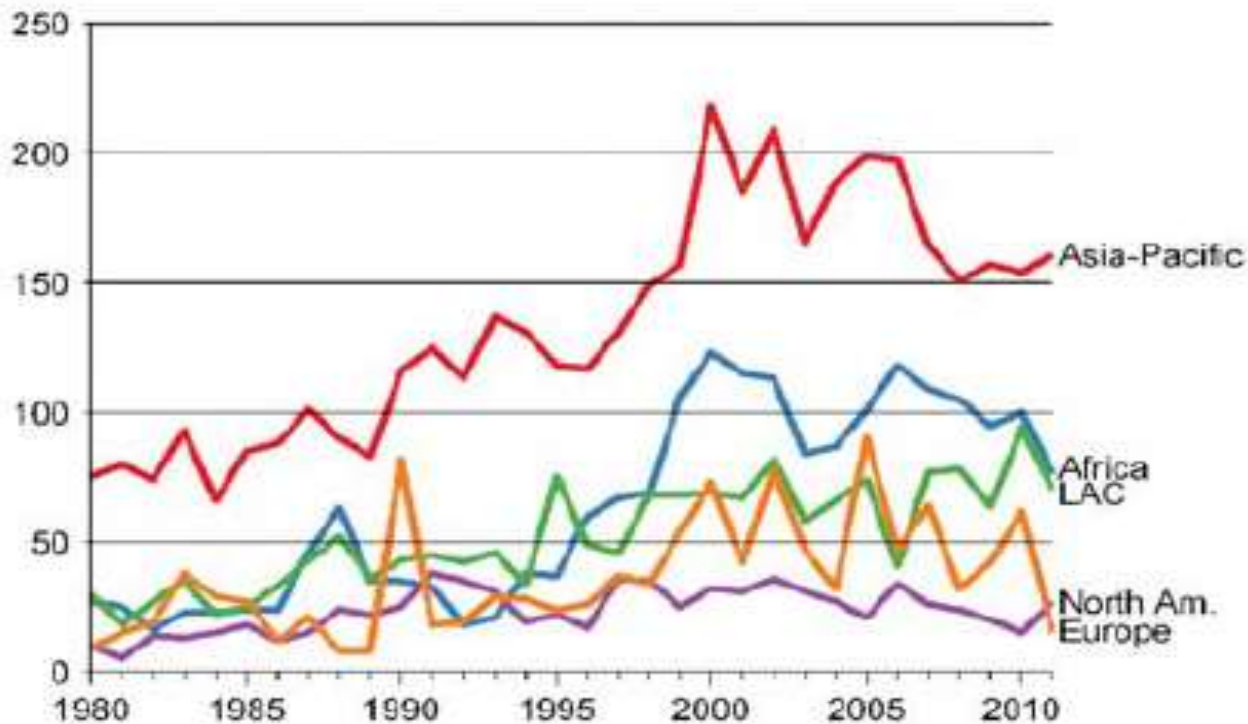


Source : Vision of Humanity website, Institute for Economic and Peace, July 2015

<Presented by Dr. Gwan-Jo Kim, Director of UNESCO Bangkok at the University of Tokyo on December 10, 2015>

世界の自然災害の発生状況

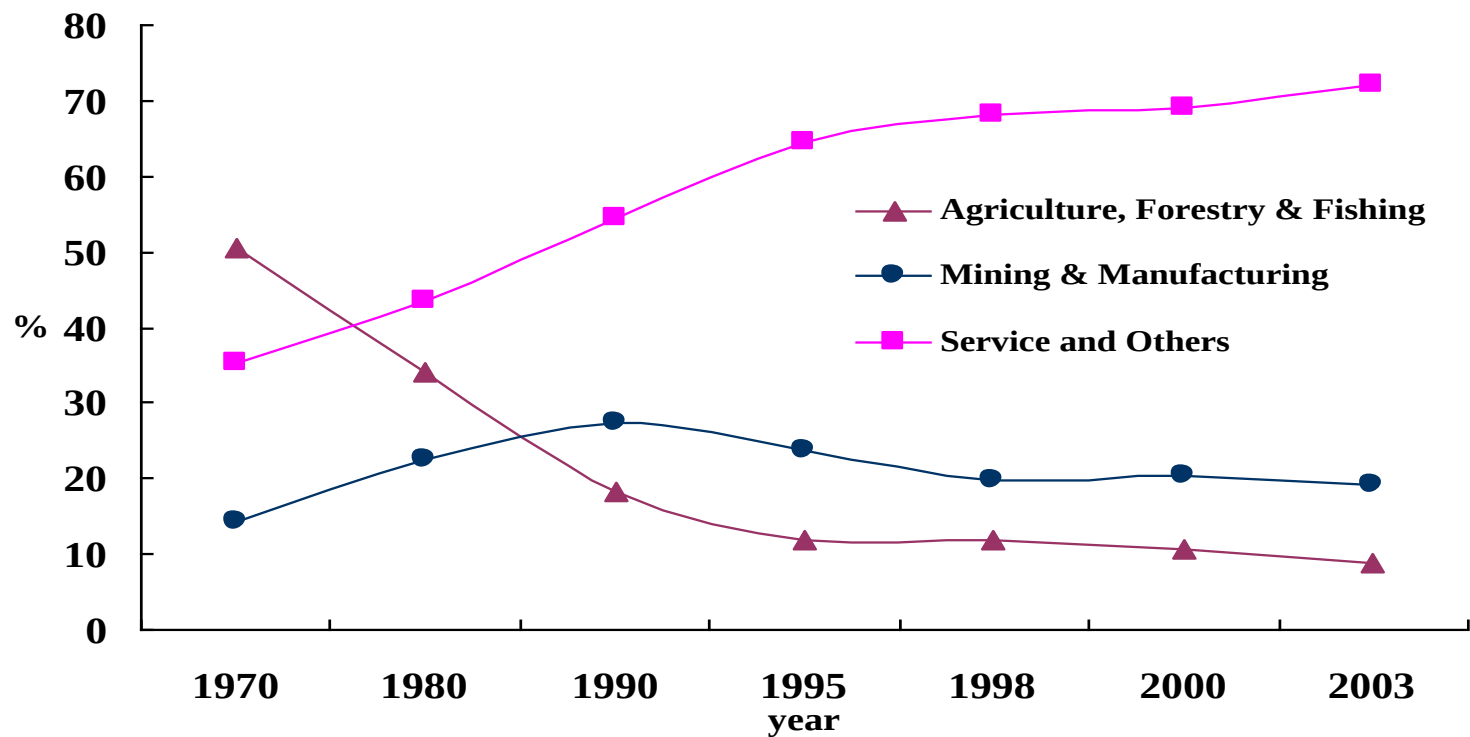
自然災害の発生回数



Source: UNESCAP (2013), Statistical Yearbook for Asia and the Pacific 2013.

<Presented by Dr. Gwan-Jo Kim, Director of UNESCO Bangkok at the University of Tokyo on December 10, 2015>

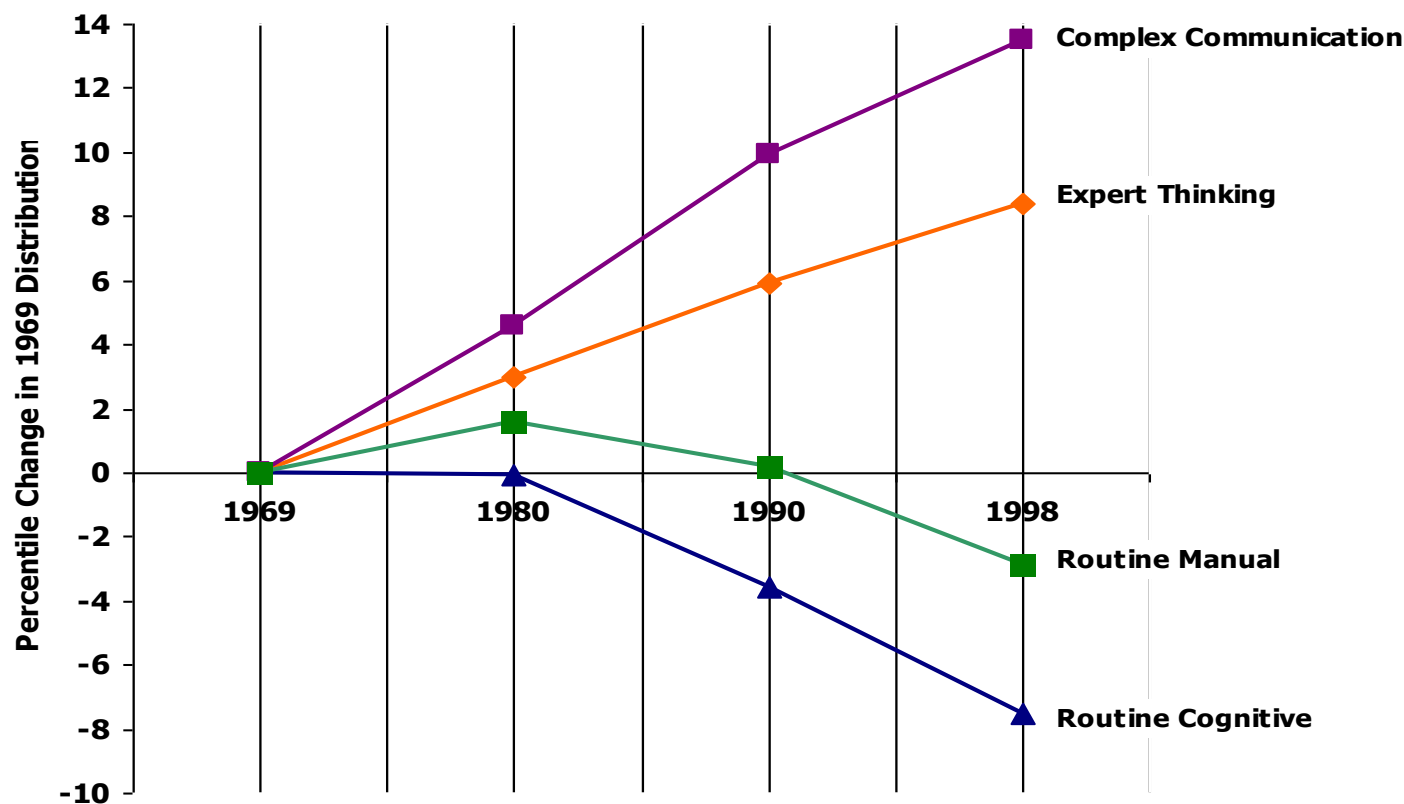
産業種別による雇用の変化(1970-2003)



Source: Yoshida (2014)

求められるスキルの変化

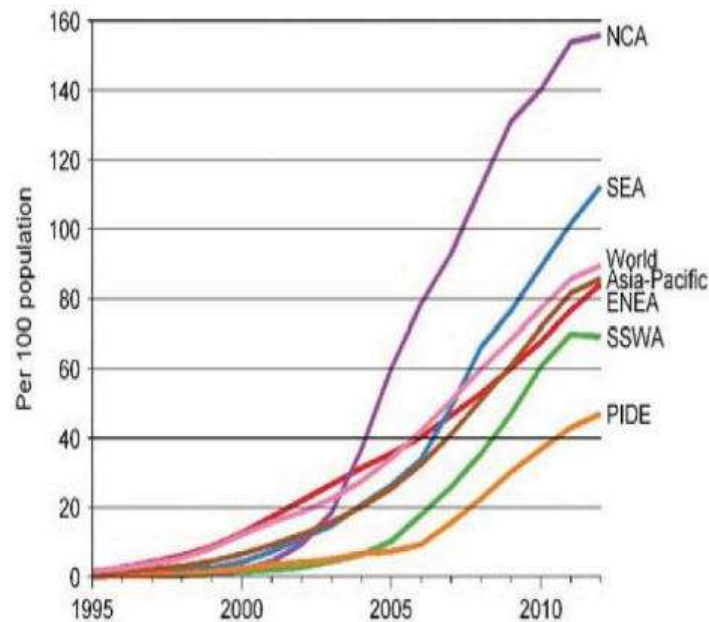
経済活動における単純労働 (routine) と非単純労働 (non-routine task) の比較
: 1969-1998 (1969=0)



Source: Yoshida (2014)

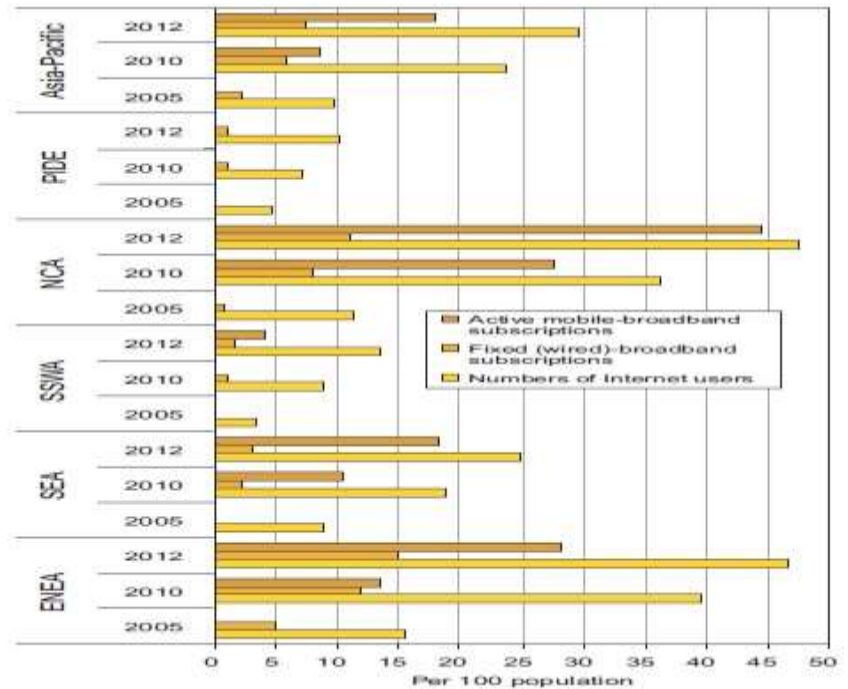
技術の革新

地域別の携帯電話契約数,
1995-2012



Source: ESCAP (2013), Statistical Yearbook for Asia and the Pacific

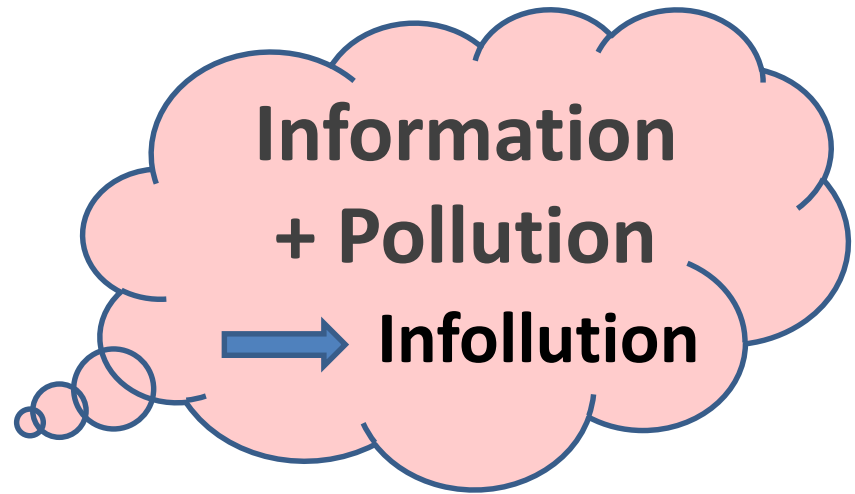
インターネット利用者数 (固定ブロードバンド及び
携帯ブロードバンド契約数), 2005, 2010, 2012



* ENEA: East and North-East Asia / SSWA: South and South-West Asia /
PIDE: Pacific Island dev. Econ / NCA: North and Central Asia /
SEA: South-East Asia

<Presented by Dr. Gwan-Jo Kim, Director of UNESCO Bangkok at the University of Tokyo on December 10, 2015>

“情報公害”



インターネットを介した情報の過剰供給が、暴力的コンテンツやネットいじめ、技術中毒など子どもに相応しくない内容をさらしている状態の「デジタル公害」を引き起こしている

<Presented by Dr. Gwan-Jo Kim, Director of UNESCO Bangkok at the University of Tokyo on December 10, 2015>

世界が直面する多様な課題

現代社会が直面する課題群： 経済、環境、社会、ジオポリティクス、科学技術

- 今後10年間で最も影響が大きいと想定されるグローバルリスク
 - 1 長期間にわたる財政不均衡
 - 2 水供給危機
 - 3 極端な所得格差
 - 4 温室効果ガス排出量の増加
 - 5 気候変動への適応の失敗
 - 6 高齢化への対応の失敗
 - 7 エネルギー・農産物価格の急激な変動
 - 8 サイバー攻撃
 - 9 グローバルガバナンスの破綻
 - 10 長引く異常気象

様々な課題の解決を目指す
持続可能な開発目標

どのように実施していくか？

→ **リテラシー**を高める、という提案

「教育の質」と「Literacies」

- 21世紀型学力観やKey competenciesに関わる議論をいかに踏まえるか

→ cognitive skillsとnon-cognitive skillsの両面を捉えるアプローチ

- 新しい「識字 (Literacies)」の考え方

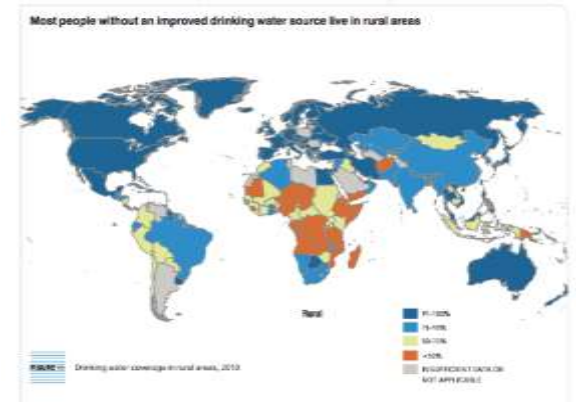
21st Century Literacies:

Basic Literacy, Ethical Literacy, Citizenship,
Media Literacy, Information Literacy,
Intercultural Literacy, Network Literacy

Literacies of various different fields and issues (e.g.,
Water Literacy, etc.)

水リテラシー (Water literacy)

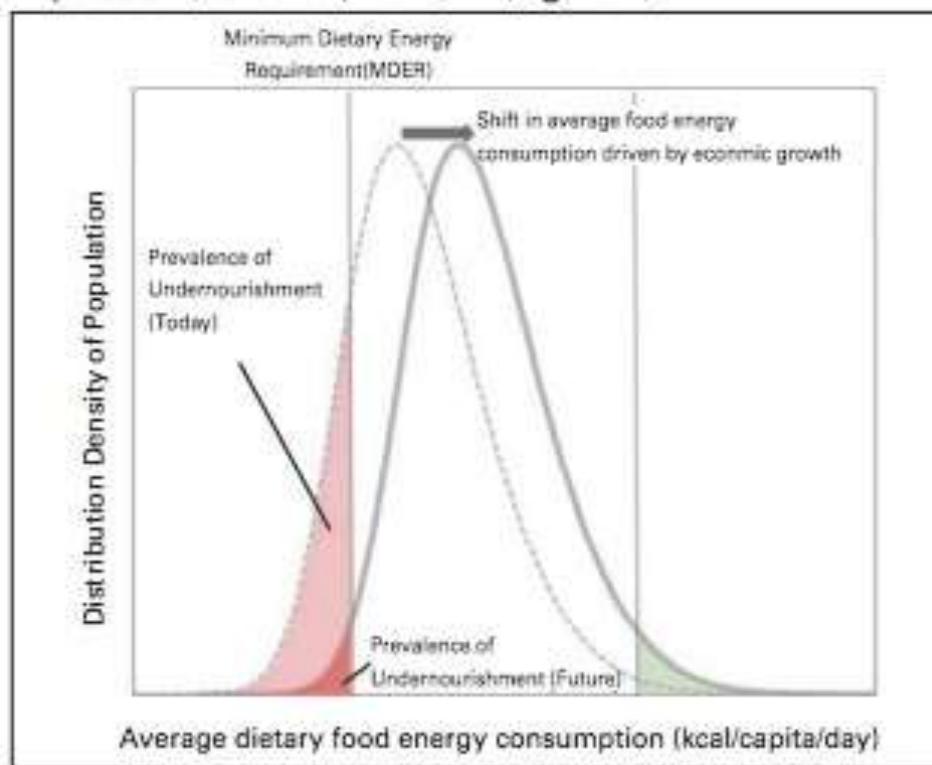
安全・安心、災害、管理



より安全な水消費を確実にし、災害リスク削減 (DRR: Disaster Risk Reduction) に貢献するために、水使用と管理 及びその他の水関連の諸課題に関する適切で正確な知識を習得すべき。

「水」—「教育」相互依存性(ネクサス) は、教育における不公正、災害復旧、地域動員等の、持続可能な開発に関する諸課題に対応するための機会を提供することができる。

健康のリテラシー(Health literacy)



飢餓と肥満の問題

- 栄養の知識（安心で安全な食の選択）
- 健康的な生活を送るための情報
- 妊産婦、幼児、子どもの健康を維持するための知識

持続可能な開発のための教育(ESD)とは

—「自立的対応力」の育成—

1.ESDは単なる知識習得ではなく、学習者みずからが価値観を見つめ直し、よりよい社会づくりに参画するための力を育むことを目指した教育です。

2.さまざまな持続可能な社会への課題と向き合い、問題解決型の「教育」や「地域の活動」から生まれる、参加体験型の「学び」を重視しています。

3.学校、企業、行政、NPO、社会教育機関、農林漁業者など、さまざまな立場の人たち、大人も子どもも、それぞれがESDの担い手であり、学び手です。



4.持続可能な社会への課題(環境・貧困・人権・平和・開発...)はとても複雑。だから、ESDは環境、社会、経済のことを総合的に扱うことが重要と考えます。

持続可能な社会の実現に向けた 地域に根差した学習と行動

地域の文脈（自然環境、人間活動、伝統、文化、歴史、経済、社会）をふまえて、それらの諸問題に関するリテラシーを高め、地域からの行動変容につなげることが重要



SDGs達成に向けた 日本への処方箋

貧困と 格差社会

処方箋 1.1	公平で質の高い医療・介護・福祉サービスの確保
処方箋 1.2	経済的・社会的格差に起因する出産障壁の撤廃

食料

処方箋 2.1	食料生産における環境負荷の低減
処方箋 2.2	農産品の持続可能性情報へのアクセス
処方箋 2.3	食料の安定供給と地方再生の実現
処方箋 2.4	気候変動への適応と種子・遺伝子の保全

健康

処方箋 3.1	健康長寿命社会の実現
処方箋 3.2	こころの健康の維持と薬物乱用の防止・治療の促進
処方箋 3.3	感染症の発生・まん延の防止
処方箋 3.4	公平で質の高い医療・介護・福祉サービスの確保

教育

処方箋 4.1	質の高い教育・訓練への公正なアクセスの推進
処方箋 4.2	持続可能な開発のための教育(ESD)の推進
処方箋 4.3	教育および社会におけるインクルージョンの推進
処方箋 4.4	地球規模課題解決のための高等教育・研究分野の国際競争力の強化と国際協力の推進

ジェンダー

処方箋 5.1	男女間の就労機会や賃金格差の解消
処方箋 5.2	女性リーダーの活躍の拡大
処方箋 5.3	男女間の暴力の撤廃と人権の尊重

水

処方箋 6.1	あらゆる水リスクへの備えと対応
処方箋 6.2	健全な水循環の維持・確保・拡大と水質の改善
処方箋 6.3	水リテラシーの向上
処方箋 6.4	世界の水問題解決への貢献

資源・ エネルギー

処方箋 7.1	効率的なエネルギー利用
処方箋 7.2	再生可能エネルギーの普及拡大
処方箋 7.3	エネルギーリテラシーの向上と、エネルギー自治
処方箋 7.4	資源生産性の向上

生物多様性

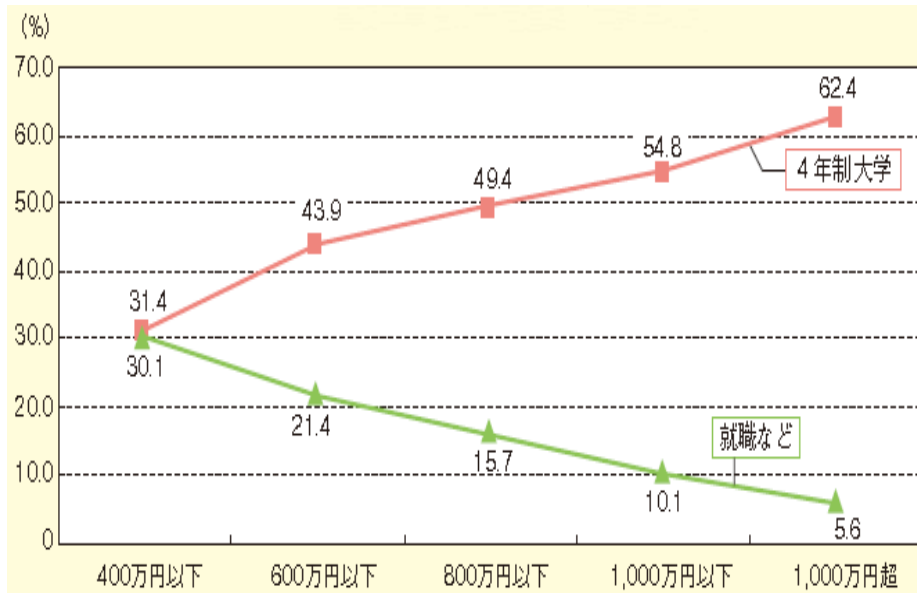
処方箋 8.1	生物多様性の保全
---------	----------

ガバナンス

処方箋 9.1	SDGs達成に向けた制度を構築する
処方箋 9.2	SDGs達成に向けて資金を動員する

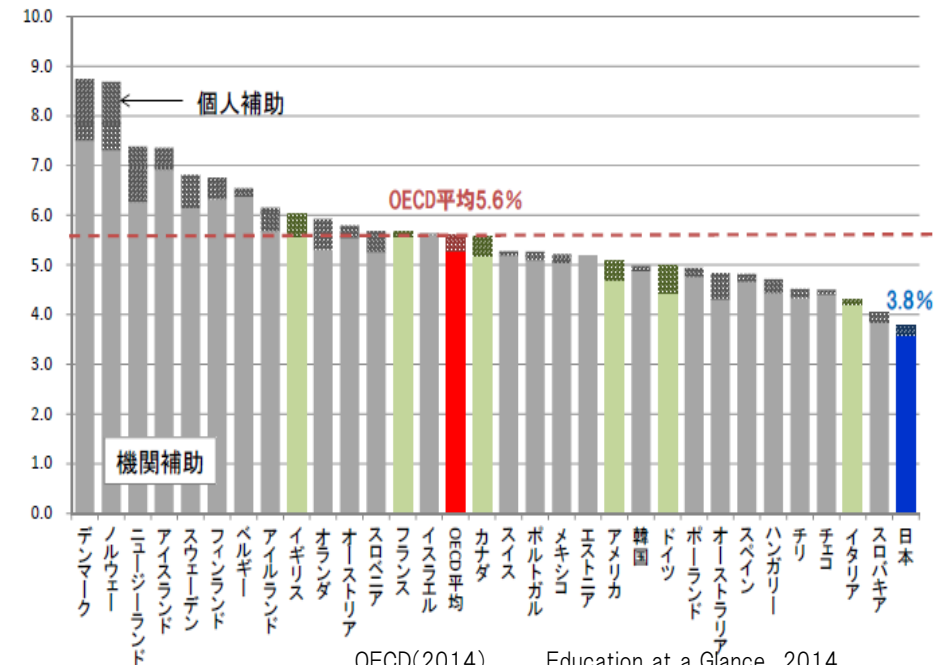
(処方箋 4.1) 質の高い教育・訓練への公正なアクセスの推進

図1. 親の収入と高校卒業後の進路



文部科学省(2010)「平成21年度文部科学白書」

図2. 主要先進国の公財政教育支出の対GDP比 (2011年)



OECD(2014) Education at a Glance 2014
文部科学省 (2015)「我が国の教育行財政について」

(処方箋4.2)

持続可能な開発のための教育(ESD)の推進



図3. ESDの概念図

(処方箋4.3)

教育および社会におけるインクルージョンの推進

図4. 特別支援学校数と
在籍者の増加ペース

●特別支援学校の在籍者数は平成15年度比で1.3倍に増加。特に高等部が増加している。

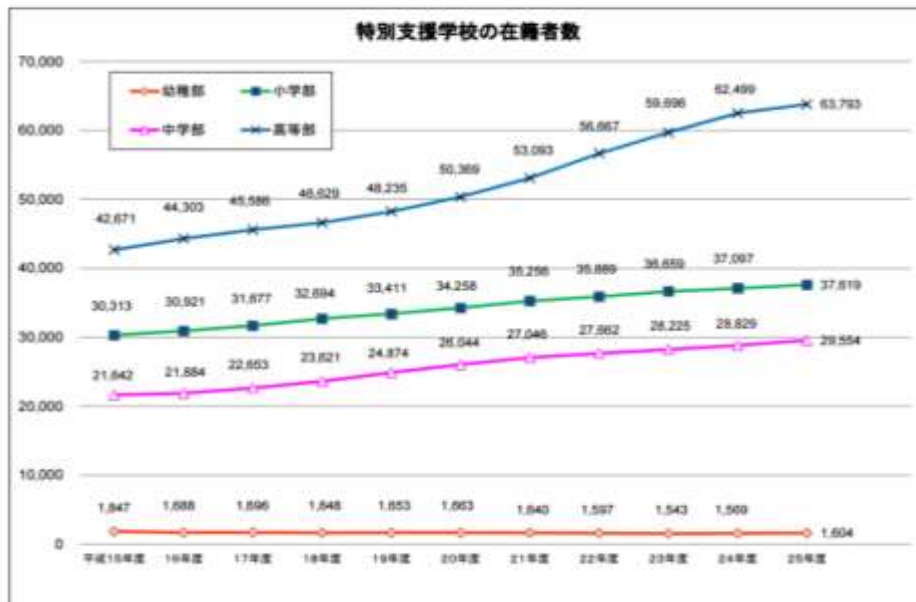


図5. 外国ルーツの子どもたちが背負う不安

外国ルーツの子どもたちが背負う不安

学業や学校生活への不安

勉強についていけない
友だちができない
自分は勉強をつづけていけるのだろうか
勉強がわからなくて、やる気がでない

アイデンティティの喪失

自分は一体何者なのか
自分はなぜここにいるの？
自分の母国はどこ？

環境への不満

日々の暮らしへの不安
出身国では、言葉で苦労することはなかったのに…
出身国の方が良い暮らしができたのに…

将来への不安

在留資格による制限への不安
進学・就職への不安
自分は将来、どこで暮らしていけばいいだろうか？

親との衝突

学校や滞在国が親の都合に左右されるいらだち
なぜ日本に来なくてはならなかったの？
自分の親が日本人の友だちの親と違う事が恥ずかしい

(処方箋 4.4)

地球規模課題解決のための高等教育・研究分野の国際競争力の強化と国際協力の推進

図6. 地球規模課題対応
国際科学技術協力(SATREPS)の概念図



今後への視座

POST -2015 時代のグローバル・ネットワーク・ガバナンス

- 相対的な環境負荷の軽減を目指し、資源問題をグローバルに統治していくことの必要性
- 持続可能な社会の実現のため、自然資本 (natural capital), 経済資本 (economic capital), 人的資本 (human capital) 等の効果的・効率的な活用
- 国際的・国内的な公正 (equity) を伴う世界の構築が post-2015 の課題.

→ “Literacies” を高めるための働きかけ
→ 「自律分散協調型」社会の構築へ向けた教育の役割

ご清聴ありがとうございました！



東京大学大学院教育学研究科

准教授 北村友人

yuto@p.u-Tokyo.ac.jp